

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和8年5月日予定

83 (%)

事業所名 吹田市立こども発達支援センターわかたけ園

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	66	34				利用者数を増やす努力が必要 40名定員が適切かどうか考える
	2	職員の配置数は適切である	33		33	34		園児の人数に対して職員が多い 園児が帰った後の業務の整理 STが欠員だったためセッション回数を減らして対応、次年度は改善予定
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	17	50	33		安全点検を毎月している トイレのオムツ替え台がないため ベビーベットを使用していたことがある 各部屋にわかりやすいシンボル マークを付けている	トイレにオムツ替え台がない、立位しにくい 木のささくれや水回りの劣化への修繕 園庭までの距離が遠いので、順路を示す 工夫があるとよい
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100					引き続き心地よく過ごせる環境を維持する
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	33	50	17		年度初めに運営の規定は配布している	運営の規定が共有できていないため職員 間での学習が必要
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	66	17		17		業務改善につながるよう意向調査をして いく
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	50			50		公開している
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	66	17		17	つなげていけるよう検討している	積み残した課題があるので具体的に目標 を立てていく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	33	50	17			研修の確保が、他課題により、実施でき ないことがあった。来年度は充実していく
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	66	17		17		専門職と連携をしてアセスメントしていく
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	83			17	アセスメントシートも活用している	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	66	17		17	家族支援において関係機関とも連携 してきた 懇談会交流会保護者 向け学習会等行い支援してきた	今後も関係機関と連携し、ガイドラインに 沿った項目を選択し具体的な支援内容に なるようにしていく
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	50	33		17	児童発達支援管理責任者と療育 計画を立ててきた	児童発達支援管理責任者とクラスが連携 して支援を行っていく
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	66	17		17	各専門職も含めチームで考えてい る	継続して立案活動をチームで行っていく
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	66	17		17	カリキュラムに沿って計画的に実 施してきた	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を 適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成して いる	50	33		17		より集団活動で保障できるようクラス編成 等考慮しながら計画を作成していく
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その 日行われる支援の内容や役割分担について確 認している	67	33			始業時集合できる職員全体で一 日のスケジュールを確認している	継続していく
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、そ の日行われた支援の振り返りを行い、気付いた 点等を共有している	83	17			当日中に一日の振り返りし情報 共有している	継続していく
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支 援の検証・改善につなげている	100				担当を決めて記録している	
	20	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計 画の見直しの必要性を判断している	66	17		17	定期的に見直しの会議を入れてき た	定期的に見直し計画をしていく
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議 にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者 が参画している	67			33	担任保育士、専門職が参加できる よう調整している	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関 係機関と連携した支援を行っている	67			33	年1回以上連携会議を行って いる	必要に応じて会議以外にも電話等で情報 共有している
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害の ある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の 関係機関と連携した支援を行っている	50	17		33	年1回以上定期会議をもち、必要 に応じて情報共有している	関係機関と連携した支援を行えるよう今 後も定期的に情報共有会議をしていく
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害の ある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を 整えている	34	33		33	保護者と連絡を取って主治医 や医療機関と連携している	今後も継続し必要時には主治医、関係機 関と連絡を取っていく
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚 園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内 容等の情報共有と相互理解を図っている	50	33		17	巡回で専門職が出向いている	今後も連携し、担任等も子供の状況 を共有して支援につなげていく
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学 部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理 解を図っている	50		17	33	施設支援で連携を取っている	今後も支援について情報共有し連携を 取っていく
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業 所、発達障害者支援センター等の専門機関と連 携し、助言や研修を受けている	83			17		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、 障害のない子どもと活動する機会がある			100		杉の子学園と交流 保育園等併行 通園児は情報共有に努めている	小さい集団の中での療育が必要と考え大 きな集団との交流は検討中 併行通園のお子さんもいるので、幼稚園 や保育園と情報共有はしている
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども 子育て会議等へ積極的に参加している	17	17		83		関係機関との連携会議に代表者が参加 しており、職員と情報共有に努める
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子 どもの発達の状況や課題について共通理解を 持っている	100					
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者 に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレ ーニング等)の支援を行っている		50	17	33	保護者学習会は行っている	クラス懇談の中でも日常の学習会を専門 職と企画したり、クラスを超えて保護者学 習会を企画したりしているがプログラム化 した支援へは検討課題

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	50	17		33	契約時に説明は行っている	契約時以外で年に1回は運営規定の説明をする
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	50	33		17	個人懇談で支援計画を保護者と確認している 児童発達支援管理責任者の面談を入れてきた	年2回の個人懇談、必要時はその都度行っていく 児童発達支援管理責任者の面談をし課題の確認、支援の確認をしていく 内容について職員の認識を共有していく
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	66	17		17	日々の連絡帳や懇談会等で話を聞いて対応している 顔を合わせる機会が多いので、できるだけ話をするようにしている	保護者のニーズをつかみ、センター全体で相談体制や助言、支援をできるよう、必要時はケース会議を持ち、様々な角度から支援していく
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	17	50		33	保護者同士のつながりを意識してクラス懇談や交流会をしている	保護者会とも連携し保護者の負担にならないよう保護者の役割等整理してきた
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	66	17		17	家庭に対して専門職と連携し心理相談や専門職につなげた関係機関とも連携して対応している	ケースにより引き続き他機関とも連携していく 要望や相談に応えられるよう早急な対応をしていく
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	83	17			定期的に保健だより、園だより、クラスだよりを発行している	ICTを活用した情報の発信をしていく
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	83		17		研修を受け、個人情報の取り扱いについて確認している	引き続き研修を受けていく 用紙等での回覧を減らしていく
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100				保護者と個別に丁寧に話す機会を持つ 視覚支援を使っている	視覚支援、聴覚支援等、配慮していく 保護者にも具体的にわかりやすく情報の伝達をしていく
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17	17	49	17	社会福祉講座のお知らせをし参加の呼びかけをしている	事業所連携をしていく	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100				不審者対応の訓練やAEDの使用等の研修を計画実施している	現マニュアル等見るところにはおいているが、周知の仕方を見直しをしていく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100				バギーや呼吸器を使用している子を想定した訓練もしている	センターのマニュアル沿って様々な想定 の訓練を計画していく
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100				4月には職員全体で確認している 子供の状況に変化があるたびに 情報の共有はしている	発作の状況に変化があるたびに看護師 を中心に聞き取りを行い、職員全体に周 知し、対応の確認をしていく 定期的な確認をしていく
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100				保護者とアレルギーの確認をし献立 チェックを行っている	間違いのないよう朝会で献立をチェック 座る場所など固定する等、間違えないよ う、きをつけていく
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100				ヒヤリハットがあると、報告書を作成し 朝会や振り返りの時間に職員間で共有 している	ヒヤリハット等を様式に記入し、記録を しっかりとっていく 次に活かし同じことを行わないようにし ていく
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	83			17	虐待防止委員会を持ちセンター全体 で対策を考えている 園内でも定期的に話をしている	センター内で虐待防止委員会を定期的に 持つ 子どもの対応や声掛けを職場内で考えあ い、風通しの良い職場づくりを考えていく
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	83			17	必要時には、保護者と確認を取り 同意書の作成をしていく 契約時にとっていた、身体拘束同意書 については全て解除した	保護者と確認後、虐待委員会にかけるな ど必要な手続きを踏み、個別支援計画 に位置付ける できるだけ身体拘束を行わない方向を考 えていく

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。